

年頭ごあいさつ

地域や日本が元気になるために!



舞鶴商工会議所

会頭 上西勝己

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、2009年の新春をご家族そろってお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、私が会頭と云う大役を仰せつかりましてから一年余りが経過しましたが、この間、国の内外を問わず、私たちを取りまく経営環境は大きく変動いたしました。こうした状況の中で、私は、改めまして商工会議所の責務の重大さに思いをいたしているところであります。

我が国の経済は、アメリカの金融危機に端を発した世界経済の同時減速による輸出の減少、個人消費の更なる低迷などで景気後退局面に入っており、中でも中小企業は、昨年来の仕入れ価格の高騰や高止まりによる採算の悪化、資金繰り悪化など、極めて厳しい状況にあります。

こうした中で、海外需要に「逃げ場」を求めることができない今、景気回復の最大の決め手は、内需振興に向けた「個人消費」の拡大であります。そして、中小企業は、雇用の7割を担っており、従業員やその家族が「個人消費」を支えているところであります。

地域や日本が元気になるためには、地域経済と雇用を支え、また地域の伝統・文化創造の担い手でもある中小企業を元気にすることがなによりも大切であります。

中小企業の活力強化を図るためには、当然ながら中小企業の自助努力が前提となりますが、予算・金融・税制などの政策によりまして、技術開発・

人材育成・販路開拓・経営IT化などの多方面から、総合的な支援を強化する必要があります。

今、私たちに一番に求められているのは、スピード感をもった、息の長い「政経一体の取り組み」であります。

このことから、私は、20年度事業計画基本方針の中で、「政策提言活動の強化」を一番に挙げ、そして、その具現化手法として、発言力を強化するために「会員増強」の必要性を、また、政策提言を立案し実行するために「部会活動充実」の大切さを、お願いしたところであります。

舞鶴商工会議所は、時代を先取りする勇氣ある政策提言を行い、政治・経済にとどまらず社会のあらゆる分野にわたって熱い思いをもって行動できる、常に時代をリードする商工会議所として機能していきたいと考えております。

2009年は丑年。「丑」という字は、手の指を曲げて物を握る様子をあらわした象形文字で、つかむという意味があります。ウシの粘りと根性にあやかり、しっかりと「景気回復」という実(じつ)をつかみ取りたいものです。

私は微力ながら、本市経済の発展のため誠心誠意の努力をしていく覚悟でございますので、関係各位の更なるご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、2009年の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈りいたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。